

## 2018年「ソーシャルワーク・教育・社会開発合同世界会議」における 精神保健福祉関連研究の動向

宇都宮 みのり

### はじめに

2018年7月4日から4日間の日程で、ソーシャルワーク・教育・社会開発合同世界会議（Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development；以下「SWSD」とする。）が、アイルランド共和国の首都ダブリンにて開催された。本報告では、同会議報告及び同会議において発表された精神保健福祉に関する研究動向をまとめその特徴を地域別に見い出すことを目的とする。

### 1. SWSD について

SWSD は、国際ソーシャルワーカー連盟（International Federations of Social Workers: IFSW）、国際ソーシャルワーク教育学校連盟（International Associations of Schools of Social Work: IASSW）、国際社会福祉協議会（International Council on Social Welfare: ICSW）の3団体が共同で2年に一度開催する社会福祉分野における最大規模の国際学術大会である。世界合同会議は今回で5回目となる。1回目は香港（2010）にて「ソーシャルワークと社会開発：アジェンダ」をテーマとして開催された。2回目はストックホルム（2012）にて「ソーシャルワークと社会開発 2012：行動と影響」をテーマとした。ここで3団体はグローバル・アジェンダを採択する。3回目となるメルボルン大会（2014）では、アジェンダに基づいて「社会的・経済的平等の促進」がテーマとして設定され、第1回の報告書が配布された。4回目のソウル大会



【写真1】開会式の様子（筆者撮影）



【写真2】展示ブースの様子（筆者撮影）

（2016）では「人間の尊厳と価値の推進」をテーマとし、第2回の報告書が発行された。

そして今回のダブリン大会（2018）は、「持続可能なコミュニティと環境/進化している社会における人間の解決（Environmental and Community Sustainability; Human Solutions in an Evolving Society）」をテーマとし、基調講演10題目、シンポジウム35題目、ワークショップ60題目、口頭発表960題目、ショート報告222題目、ポスター発表742報告で構成された。参加は100か国以上から2,000人を超えたとの報告があった。

## 2. メンタルヘルスに関する世界の研究動向

会議開催期間中のプレゼンテーションは15のテーマに分類された。2,043頁に及ぶ抄録集に提示されている報告題目を、テーマ別及び報告種別に整理しつつ、演題数と用意された部屋数をカウントし、一覧表を作成した【表1】。2016年の前大会では25のテーマに分類されていたが、今回はいくつかを統合させ15に絞っている。例えば「健康とメンタルヘルス」と「ディアビリティ」は別のカテゴリーであった(宇都宮2016:98)が、今大会では「健康とメンタルヘルス及びディアビリティ」として1つにまとめている。また、前大

会では「教育と訓練」と「地域の発展」は別であったが、今大会では「地域社会のニーズを満たすための教育の強化」と統合され、目的がより具体的かつ明確になっている。

報告数が最も多かったのは、「健康とメンタルヘルス及びディアビリティ」をテーマとする報告で、27会場において257件であった。次いで「地域社会のニーズを満たすための教育の強化」をテーマとする報告で、43会場において237件であった。前大会においても「健康とメンタルヘルス」、「教育と訓練」は上位1、2を占めており、傾向としては変わらない。

これらの中で、精神保健福祉に関する研究に着

【表1】SWSD2018における分科会テーマ別演題数と会場数

分科会テーマ	報告された演題数 (件)					演題数 合計 (件)	用意され た会場数 (部屋)
	シンポ ジウム	ワーク ショップ	口頭 発表	ショート 報告	ポスター 発表		
Health, mental health and disability	5	4	122	34	101	284	27
Strengthening education to meet the needs of communities	7	12	126	28	83	280	43
Conflict, violence, migration and human trafficking	5	5	79	8	71	175	17
Relationship-based practice: promoting the importance of human relationships	3	7	72	6	73	167	16
Identity, discrimination and social exclusion	2	6	71	13	51	150	15
Income, wellbeing, employment and poverty	0	1	71	10	53	145	11
Women's issues focused stream	4	3	68	0	58	141	15
Rights of families and children	0	2	58	10	46	123	9
Role of social workers in fulfilling the UN's sustainable development goals	0	4	59	24	25	122	14
Engagement with people who use services	1	7	57	13	28	113	15
Linking environmental and sustainable development	3	1	53	11	38	113	11
Evidence informed interventions	1	4	35	11	46	102	10
Community development and social enterprise	2	2	31	35	26	104	12
Ensuring the sustainable and ethical use of technology in human services	1	1	50	8	21	93	14
Life span perspectives and issues	1	1	8	11	22	45	4
合 計	35	60	960	222	742	2,157	233

注：ABSTRACT BOOK, SWSD2018 より抽出・分類して作成した。

【表2】 SWSD2018におけるメンタルヘルスに関する研究発表の地域別件数

地 域	演題数 (件)
アフリカ地域	1
ヨーロッパ地域	13
北アメリカ地域	8
ラテンアメリカ地域	1
アジア太平洋地域	12
国際共同研究	1
合 計	36

注：ABSTRACT BOOK, SWSD2018より抽出・分類して作成した。

目する。研究報告1,924件の中から「健康とメンタルヘルス及びディスアビリティ」のカテゴリーで報告された257件のうち、口頭発表形式で報告された122件の抄録の内容を詳細に確認すると、メンタルヘルスに言及している報告は47件であった。さらにその47件中、メンタルヘルスを主として論じている研究として36件が抽出できた。この36件の特徴について以下に述べる。

報告者の地域別に見ると、アフリカ地域から1件、ヨーロッパ地域から13件、北アメリカ地域から8件、ラテンアメリカ地域から1件、アジア太平洋地域から12件、国際共同研究が1件であった【表2】。前大会ではアフリカ地域5件、ヨーロッパ地域2件、北アメリカ地域6件、ラテンアメリカ地域0件、アジア太平洋地域8件であった（宇都宮2016：96）ため、それと比べるとアフリカ地域が減少し、ヨーロッパ地域が増加した。ヨーロッパ地域の増加には、開催地域の影響が考えられる。

主な内容は以下の通りである。筆者が分科会に出席できなかった報告は抄録を参照した。

アフリカ地域からは、2016年の前大会でも報告された南アフリカのA. Ornellasによる継続研究が届けられた。南アフリカにおいて精神障害のある人の脱施設化が歪んだ形で進められている問題である。前回は、地域の支援体制を整えることなく脱施設化が急激に進められている状況が報告

された（宇都宮2016：97）。今回は、精神科病院を退院しNGO施設にいる1,000人の精神障害のある人のうち94人が虐待死した実態が報告された。政府がメンタルヘルス支出を大幅に削減したこと、民間が人権擁護の理念ではなくビジネスモデルで展開されたことを理由として挙げた（A. Ornellas & L. Engelbrecht 2018）。前回に引き続き、権利擁護の思想が高まるとともに、見逃せない人権侵害事件が社会問題となっている。

北アメリカ地域からは、トラウマ治療に関する報告が目立った。身近な家族を失ったトラウマ、パートナーからの暴力を受ける女性のトラウマ、子どものいじめ被害によるトラウマ、災害後トラウマである。まず、L. Y. Saltzmanは、喪失と悲しみへの対処に「時間」が果たす役割に関する調査結果を報告した。家族を失った6人へのインタビューの結果を定数比較分析することにより、記憶における「時間」の重要性と、時間が経つにつれて悲しみや対処、適応のパターンが周期的なプロセスを経て改善することを証明している。「すべての傷が治癒することを示唆する」と報告された（L. Y. Saltzman 2018）。次に、K. Gonzalez-Ponsらは、アメリカにおいて3人に1人の女性がパートナーからの暴力（性的・身体的あるいはストーカー被害）を経験していることをふまえ、そのサバイバー102人へのインタビュー調査を通して、パートナーからの暴力に対処するためにサバイバーが薬物やアルコールを使用することがあること、福祉サービスへのアクセスを欠いていること、福祉サービスを受けている人の中には精神障害や薬物障害の有病率が高いことを明らかにした。そして質の高いトラウマ・インフォームド・コミュニティでの行動療法（trauma-informed community behavioral health care）と薬物障害サービスへのアクセス拡大の必要性を述べた（K. Gonzalez-Pons & L. Gezinski 2018）。そして、A. Willifordらは、12歳未満児のいじめ被害による精神的健康に関する調査報告をしている。時間経過に伴って、いじめ被害を受けた子どもの自尊心、不安症状、仲間の認識、学校のつながりに与える影響を調査

し、初期レベルから症状が見られること、後々にまで大きな影響を与えることを解明し、予防的介入と早期介入の必要性を述べた (A. Williford & K. DePaolis 2018)。さらに、T. Powell は、2015 年に起こったネパールにおける M7.8 の地震の被災者 750 人を対象に、被災後の精神的症状 (不安・鬱・ストレス) 及び医療へのアクセス状況を調査した。その結果、鬱・不安スコアは 40~50 歳の女性と貧困ライン以下の人に多く、質の高い医療を受けた人には低かったことを明らかにし、一次医療現場におけるメンタルヘルスケアの必要性を強調した (T. Powell 2018)。また、Freedman らは、犯罪・薬物使用・ホームレス・トラウマ・暴力を含む未治療の精神障害による社会的問題への対処として、精神障害のある人の「健康の追究」すなわち「全体的な生活の質の維持と最適な情緒的・精神的そして肉体的健康の追究」を掲げ、意味中心療法 (Meaning-Centered Treatment) の使用を提唱している。意味中心療法の基盤は V. E. Frankl (1959) によるロゴセラピーにあるが、意味中心療法の使用は情緒的・環境的・経済的・知的・職業的・身体的・社会的そして霊的なマイクロ・メゾ・マクロレベルで個人に影響を与え、さらに健康を達成するためのプロセスが、個人だけでなくコミュニティにも有益であることを述べた (D. Freedman & M. Freedoman 2018)。他には、ソーシャルワーク専門職の歴史研究 (Y. Chen 2018)、メンタルヘルスの問題を抱える学生への支援 (J. Shankar 2018)、成人移民者のメンタルヘルス支援 (M. L. Bessaha 2018) が見られた。北アメリカ地域では多様な課題への現実対応が課題となっているが、特にトラウマ治療に関する研究が多く見られ、この傾向は 2016 年の前大会でも認められた。

ヨーロッパ地域からは、アイルランド 4 件、イギリス 6 件、オランダ&ベルギー 1 件、キプロス 1 件である。研究テーマは実に多様で、権利擁護、新しい介入方法の検証、家族支援、移民支援等があり、現実的な社会問題への実践的対応と理論的研究に分けられる。まず 1 点目、権利擁護の視点からは、K. M. Lynch が、アイルランド精神法 (Irish

Mental Act) は 2001 年改正によって成人の精神障害のある人の非自発的入院規定は保護の構造や精神医学的意見の再要求できる等の権利擁護が充実したが、児童については権利擁護規程が確立されていないという問題点を挙げている (K. M. Lynch 2018)。入院中の権利擁護については J. Shears らも取り上げている。イギリスで入院中の精神障害のある人の「安全」について、入院している当事者とスタッフに調査を実施し、両者の認識を比較した。その結果、4 人に 1 人の当事者が安全ではないと感じているが 99% のスタッフが安全性に自信を持っていたことを明らかにした (J. Shears & M. Emsteva 2018)。2 点目、新しい介入方法としては、A. Flanagan らが、刑務所服役中の精神障害のある人の再発率と死亡率は刑期満了に伴い高まるという実態を受けて 2015 年から 2 年間実施した、服役中の精神障害のある人のためのメンタルヘルスケアに焦点を当てた「プレリリースプログラム (PReP)」の報告があった。アイルランドの刑務所と地域密着型サービスとが連携して PReP を実施した結果、地域の精神保健福祉サービスに精神障害のある受刑者の 83% が再統合されたと言う (A. Flanagan, S. Harnett & D. Smith 2018)。L. Villarreal Sosa らは、アイルランドの移民の社会適応とメンタルヘルス問題を取り上げ、330 人を対象に調査をしている。その結果、65% の移民がメンタルヘルスの問題を抱え、その半数以上は未治療である。その背景にメンタルヘルスの治療を受けることへの「当惑や恥 (embarrassment or shame)」があると分析した (L. Villarreal Sosa, B. Murphy & L. Kennedy 2018)。新しい障害への支援として、2013 年に DSM-5 に含まれた「ためこみ症 (Hoarding Disorder)」が、2014 年にイギリスの新法廷指針において保護すべきセルフ・ネグレクトに分類されたため、ソーシャルケアサービスの対応が必要になった。そして介入方針を検討するにあたり、同障害についてインタビュー調査を行い、「価値と浪費」「社会性・人間関係・損失」「身体的制約」「精神的健康」の 4 つの枠組みで分析し、「ためこみ症」のある人との関係形成

のために、どの程度干渉するかあるいは干渉しないかについて論じている（D. M. Orr, M. Preston-Shoot & S. Bray 2018）。3点目に理論研究としては以下の研究を挙げることができる。家族支援の理論として、M. Kelleherらは、精神障害を診断された後の家族関係の変化に関して「疎遠な親密さ（estranged intimacy）」理論を提唱した。「疎遠な親密さ」とは、代理行為や依存関係によって家族関係がより緊密に結びつき、同じ理由で家族を引き離す状況と説明する（M. Kelleher, M. Keenan, J. Campbell, P. Egan & M. Clarke 2018）。また、R. Mothらは、新自由主義的福祉改革の影響によって、「労働・支援手当（Employment and Support Allowance; ESA）」と「個人自立手当（Personal Independence Payment; PIP）」を必要とする人たちの、給付へのアクセスが減少したこと、社会保障レベルが低下したこと、申立人が自尊心と安全の感情に悪影響を及ぼしたことを明らかにし、この苦痛を「恩恵の苦痛（Benefits distress）」と呼んだ（R. Moth & M. Lavalette 2018a）。R. Mothらは、新自由主義による福祉縮小は、精神保健医療従事者の仕事を激変させたことについても言及している（R. Moth & M. Lavalette 2018b）。スペインのJ. Cazorla Palomoらは博士論文の一部として、精神障害のある人の生活の質向上のために、ソーシャルワーカーが果たす役割を報告した（J. Cazorla Palomo & B. Parra Ramajo 2018）。オランダ・ベルギーのS. Stupar-Rutenfransらは、感情規制プロセス理解と文化理解の重要性を述べた。感情規制とメンタルヘルスは密接な関連をもつ。多様な文化的背景を持つ移民との共生のために、社会文化的理解と感情の表示ルールを学ぶことが必要であるとした（S. Stupar-Rutenfrans, F. Van de Vijver & J. Fontaine 2018）。そして、S. K. Parlalisは、キプロス共和国設立（1960年）当初から社会福祉サービスと精神保健サービスのソーシャルワーカー同士の協力体制が欠如してきたことを歴史的に検証した（S. K. Parlalis 2018）。ヨーロッパ地域では精神保健ソーシャルワークの重要なテーマである権利擁護問題を正面から取り上げていること、精神

保健を取り巻く多様な社会問題に取り組み、歴史・理論研究も進められていることが特徴である。

ラテンアメリカ地域からは、ブラジルのE. Stelutiが報告している。ブラジルにおける精神保健の政策転換を1970年代から紐解くと同時に、デイホスピタルという地域と入院の中間に位置づく実践の成果を報告している（E. Steluti 2018）。

アジア・太平洋地域からは、中国・香港6件、オーストラリアが4件、シンガポール・マカオ各1件が報告した。精神障害のある人への支援実践と方法の検証報告が多く、精神保健ソーシャルワーカーの教育・訓練に関わることと子どものメンタルヘルスに関する調査報告もあった。歴史研究や理論研究はなかった。まず1点目に、精神障害のある人への支援実践と方法の検証報告として、M. Petrakisらによるオーストラリアの精神科病院における「拡大退院後支援の取り組み（Expanding Post Discharge Support initiatives; EPDI）」の成果報告が興味深い。EPDIとは急性期に入院者の地域社会への移行を支援するピアサポートワーカーの採用、訓練、サポート、モニタリングと報告のプロセスを言う。結果として入院の長期化を防ぎ、自己効力感を向上させ、地域社会への参加の拡大が実現したと言う（M. Petrakis, L. Buckley & C. Raspor 2018）。また、香港のY. Liuらは、農村から都市部への移住労働者に対してどのようなメンタルヘルスサービスが必要かを調査している（Y. Liu & M. Ran 2018）。J. Cuiらは、重度の精神障害を持つ人に関わるソーシャルワーカーへのオンライン調査を通して、シドニーと香港のソーシャルワーカーの認識を比較している（J. Cui, C. Newman, L. Mao 2018）。新しい支援技法として、Y. K. W. Loは、中国には精神的不健康状態に陥ることをタブー視する文化的背景がある中で精神科を受診することを拒否する人が多いために、「やる気を起こさせる面接技術（motivational interviewing skills）」を用いて受診援助を行うことが求められていることを報告した（Y. K. W. Lo 2018）。共通する問題であるが、K. A. Leeは、精神障害がある場合に治療や福祉サービスへのアク

セシビリティ向上のツールとして、スマートテクノロジーの使用の可能性を示唆する (K. A. Lee 2018)。2点目に、ソーシャルワーク教育・訓練の研究として、M. Konidaris-Kozirakis は、ソーシャルワーク教育に「文化的謙虚さの原則 (cultural humility principles)」を導入することを提案している。文化的多様性を持つ地域で、メンタルヘルスサービスへのアクセスに関する公平性に格差が生じている現状において、ソーシャルワーク教育で「文化的謙虚さ」に関する学習と訓練が必要だとする (M. Konidaris-Kozirakis & M. Petrakis 2018)。そして3点目に、子どものメンタルヘルスに関する研究としては、C. T. Fung が、香港の中学生の精神的健康に関する調査研究を実施し、高い水準の不安症状をもつ中学生が3割であることを報告された (C. T. Fung 2018)。香港の中学生のうつ病やストレスに関する研究は2016年の大会でも、約19%がうつ病に苦しみ、約2%が重度の自殺念慮を示し、約30%が強い不安に苦しんでいることを明らかにした報告があった (Chi Kwan Tam ら, 2016)。子どものメンタルヘルスに関しては、マカオの S. P.-K. Lau らも報告している。小学生のストレスの原因について、宿題の過重な負荷によるストレスが21.1%、遊び時間が不適切であることが17.6%、兄弟姉妹同士の比較によるストレスが16.5%だとしたことである (S. P.-K. Lau, B. P.-C. LO & C.-N. Ip 2018)。アジア太平洋地域は、コミュニティベースの精神保健福祉の新しいモデル開発が進められているが、地域や文化の多様性理解が前提となること、共通認識を図るための実態調査が進められている。

### 3. 結論

SWSD2018における「健康とメンタルヘルス及びディスアビリティ」のカテゴリーで報告された研究のうち、主にメンタルヘルスに関する研究成果の特徴を、地域別に見出した。

アフリカ地域では、地域支援体制が未整備なままで進められる「脱施設化」政策の弊害として民

間施設内での虐待実態が明るみにってきた。政策の歪みと民間依存体制を問題視している。北アメリカ地域では、トラウマ治療にした研究が目立った。暴力、虐待、いじめ、犯罪被害、薬物、喪失体験、災害、ホームレス等、様々な困難に伴うトラウマである。ソーシャルワーク理論史においてマイクロ実践とマクロ実践の融合あるいは対立は繰り返し議論されてきた。近年では共通基盤の前提とするジェネラリスト・ソーシャルワークの考え方が浸透してきているが、北アメリカにおけるメンタルヘルス領域ではマイクロな視点が求められているようである。ヨーロッパ地域では、入院患者の権利擁護、精神障害受刑者への地域再統合プログラム、家族との「疎遠な親密さ」理論の提唱、社会保障レベルの低下等によってもたらされる「恩恵の苦痛」論、感情規制とメンタルヘルスの関連性に着目した移民支援理論等が、次々と提唱された。現実課題に対応するための実践理論研究が精力的に進められている。ラテンアメリカ地域では、入院患者の退院支援実践が報告された。アジア太平洋地域では、未治療の精神障害へのアウトリーチ及び受診援助と同時にコミュニティベースの地域生活支援モデルが検討されている。また児童生徒のストレスと自殺に関する研究は、アジア地域においてのみ継続的に行われていることである。

施設入所者への虐待、地域資源未整備な中での脱施設化、入院中の権利擁護、治療へのアクセスの保障(アウトリーチ)、退院援助、中間施設への退院、地域での生活支援という、精神保健福祉の課題が、5地域において時期を異にしながら繰り返し発生している。同じ轍を踏まないために、悲劇を繰り返さないために、各地域の歴史的社会的文化的背景を理解し、課題を共有し、グローバルな解決策の検討を進めていく時期に来ている。

### おわりに

基調講演も含めたSWSD2018全体として、(1)多様性理解のための相互対話、(2)政治的関与、

(3) 社会的変革の重要性が共通した鍵概念であったように思う。そして精神保健福祉領域においては、①精神障害のある人の権利擁護、②非自発的介入を最小限にするための法整備、③地域社会との生の連続性を視野にコミュニティベースでの連携協働、④トラウマなどへの治療的関わり、⑤社会文化的多様性の理解を深めるといふ社会的な課題があるということが確認できた。

地域ごとの研究課題の傾向として、極めて大きくくりではあるが、アフリカ地域では①権利擁護とそれに対する(2)政治的関与を求めており、北アメリカ地域では④トラウマなどへの治療的関わりが大きな社会問題となっており、ヨーロッパ地域では(1)多様性理解と(2)政治的関与、(3)社会的変革の重要性の重要性をベースに②非自発的介入の問題が、ラテンアメリカ地域では③地域社会との連続性を視野にコミュニティベースでの連携協働が、そしてアジア太平洋地域では③コミュニティベースでの連携協働、⑤社会文化的な多様性の理解と、それに向けての(1)相互対話の重要性が大きな社会的な課題となっていることと理解できた。

最後に、IFSWの総会(7月1日～2日)において、アジア太平洋地域の木村真理子会長(日

本精神保健福祉士協会役員・日本女子大学教授)が、Andrew Mouravieff-Apostol賞を受賞した。同賞は、1992年までIFSW事務局長を務め2001年に亡くなるまでIFSWの名誉会長であった人の名前をとったもので、IFSWにおける最高位の賞である。IFSWの発展に対する多大なる功績が認められ、日本人として初めて受賞されたことを称賛したい。

謝辞 本報告はJSPS科研費15K03931の助成を受けたものである。

## 引用文献

Chi Kwan Tam and Suk Wah Yau; Evaluating Mental Health Promotion in Hong Kong Primary Schools, Program Book of Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development, 2016.

宇都宮みのり(2016)「ソーシャルワーク、教育および社会開発に関する合同世界会議2016年ソウル大会報告記」『生涯発達研究』9.95-102.

## SWSD2018 ABSTRACT BOOKからの引用文献

A. Flanagan, S. Harnett and D. Smith; Beyond the Walls: An Evaluation of Ireland's First Pre-Release Planning (PreP) Programme for Mentally Ill Sentenced Prisoners, Abstract Book of Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development, 2018, p. 493. (出典以下同)

A. Ornellas and L. Engelbrecht; Neoliberalism and Mental Health in South Africa: Death by Negligence and Business Opportunity, p. 504.

A. Williford and K. DePaolis; Understanding the Impact of Cyberbullying Victimization on Negative Health and Mental Health Outcomes among Children: Implications for Social Work, p. 520.

D. Freedman and M. Freedman; Promoting Wellness for those Diagnosed with Mental Health Disorders: Implications for Meaning-Centered Treatment, p. 545.

D. M. Orr, M. Preston-Shoot and S. Braye; Understanding the hold things have: engaging people who hoard through relationship-based practice, p. 470.

D. W. L. Lai, S. Yau and K. C. Chan; Meaning of getting older for people with mental illnesses, p. 488.

G. Drake; The role of regulation in providing for the rights of



【写真3】 Andrew Mouravieff-Apostol賞を受賞した木村真理子氏(写真は木村氏本人からの提供)

- people with disability who live in marginal housing, p. 569.
- J. Campbell, L. Brophy, G. Davidson and A.-M. O'Brien; International comparisons of how mental health social workers support the exercise of legal capacity, p. 295.
- J. Cazorla Palomo and B. Parra Ramajo; THE ROLE OF SOCIAL WORK IN THE EMPOWERMENT PROCESS OF PEOPLE DIAGNOSED WITH A MENTAL DISORDER, p. 1650.
- J. Cui, C. Newman and L. Mao; Empowering People with Severe Mental Illness: Perspectives from Social Work Practitioners in Sydney and Hong Kong, p. 525.
- J. Mohanty, W. Park and S. Chokkanathan; Risk factors for Korean adult international adoptees: A latent class analysis, p. 462.
- J. Shankar; College Counselors' Experiences and Challenges with Post-secondary Students with Mental Health Disorders, p. 541.
- K. A. Lee, Improvement of Access to Mental Healthcare Services: Opportunities for Smart Technologies, p. 467.
- K. Gonzalez-Pons and L. Gezinski; Treating Trauma: Barriers to Mental Health and Substance Use Disorder Services for Survivors of Intimate Partner Violence in the United States, p. 565.
- K. M. Lynch; Are our children safe? A critical perspective of safeguarding measures for involuntary admissions of adolescents under the Mental Health Act, 2001, p. 561.
- K. Mathias, P. Pillai and S. Jain; 'Pictures make it easy' - co-development of a visual tool for mental health recovery in North India using participatory action research, p. 479.
- L. Villarreal Sosa, B. Murphy and L. Kennedy; Irish Immigrant Adaptation and Mental Health: A Survey of the Chicago Community, p. 552.
- L. Y. Saltzman; Time Heals All Wounds: The Role of Meaningful Time in Coping with Loss and Grief, p. 1007.
- M. Kelleher, M. Keenan, J. Campbell, P. Egan and M. Clarke; Estranged Intimacy? A grounded theory study of how family relationships change after diagnosis of a psychotic episode, p. 27.
- M. Konidaris-Kozirakis and M. Petrakis; INTRODUCING CULTURAL HUMILITY PRINCIPLES WITHIN SOCIAL WORK CURRICULUM - A NEEDS ANALYSIS, p. 457.
- M. L. Bessaha; Barriers to Mental Health Service Utilization among Emerging Adult Immigrants in the United States, p. 563.
- M. Petrakis, L. Buckley and C. Raspor; Social work and mental health service users co-designing and co-delivering support after inpatient care, p. 566.
- M. R. Pappadis and B. Jones; Quality of Life and Mental Health among Caregivers of Stroke, p. 483.
- N. Lu and V. W. Q. Lou; Caring for Frail Older Adults with Musculoskeletal Conditions: A Study on Caregiver Burden, Social Support and Life Satisfaction, p. 460.
- R. Moth and M. Lavalette; Benefits distress: the impact of active welfare and social protection reforms on claimants with mental health needs in England, 2018a, p. 463.
- R. Moth and M. Lavalette; Mental health workers perceptions of the impact of neo-liberalism and austerity on service delivery: sites of struggle and resistance, 2018b, p. 464.
- S. Carr, and T. Hafford-Letchfield, A. Faulkner, C. Megele, D. Gould, C. Khisa, R. Cohen; Keeping control: Exploring mental health service user perspectives on targeted violence and hostility in the context of adult safeguarding, p. 555.
- S. K. Parlalis; Mental Health and Social Work in Cyprus: Connection Lost, p. 447.
- S. P.-K. Lau, B. P.-C. LO and C.-N. Ip; An exploratory study of the mental health of primary school students of Macau, p. 455.
- S. Stupar-Rutenfrans, F. Van de Vijver and J. Fontaine; The Importance of Culture in Emotion Regulation, p. 538.
- T. Fung; A Research Study on the Mental Health of Secondary School Students in Hong Kong, p. 526.
- T. Powell; Investigating the aftershock of a disaster: A study of health service utilization and mental health symptoms in post-earthquake Nepal, p. 556.
- W. Cabin; Enhanced Social Work Coverage of Home-based Alzheimer's Patients Improves Mental Health Outcomes, p. 529.
- Y. Chen; Trajectory Revisited: How Social Work Planted Itself in the Field of Mental Health during the Profession's Nascent Stage in America, p. 554.
- Y. K. W. Lo; The use of motivational interviewing skills for people with possible mental health problem in Chinese culture, p. 507.
- Y. Liu and M. Ran; What kind of mental health service do Chinese rural-to-urban migrant workers need: Current situation and future directions, p. 540.